
第4章

小中学生向け 講義用テキスト 《講義型》

I 講義用テキストの使用にあたって

▶ はじめに

本章は、小中学生を対象とし、パワーポイントを上映しながらスライドに沿って授業を行うシナリオ例を掲載しています。児童生徒の数は、クラス単位などの比較的少人数から、大教室や体育館などでの大人数の場合まで対応可能です。

《講義型》の授業は、講師による説明が中心となりますが、一方的に話すのではなく、適宜、児童生徒との対話を取り入れるとよいでしょう。

授業に取り組むにあたり、本書の「租税教育に取り組むにあたって（P3～）」や「学習指導要領について（P16～）」をぜひご一読ください。

▶ シナリオ例の概要

はじめに「税の意義・役割」として、税の使い道を具体的に紹介して税に親しみを抱かせ、さらに国の財政状況に触れます。

次に、主な税目が約50種類あることを紹介し、税金の集め方、また税金の使い方について、それぞれ「公平」をキーワードに説明します。

さらに、日本における税の決められ方として国会の仕組みや日本国憲法に触れ、「税を通して民主主義を考える」ことを学び、国民主権・民主主義・租税法律主義の概念の理解につなげます。

最後は、主権者としての社会参画意識、健全な納税者意識を抱いてもらい授業を締めくくります。

▶ 本章の教材について

○スライド7・8は、年間教育費に関するクイズとなっており、小学生と中学生では金額が異なりますのでご注意ください。小学生用と中学生用のパワーポイントをそれぞれ日税連HPに公開しています。

○本章のシナリオ例に沿った解説書を日税連HPに公開していますので、租税教室の準備にあたり一読し、より良い授業を行えるようご活用ください。

II 授業時間モデル

テーマ	スライド No.	項目	内容及び目的	目安時間
導入	1	あいさつ・自己紹介	良い第一印象となるよう心がけ、児童生徒の気持ちを引きつける。あわせて講師である税理士がどのような職業か簡潔に紹介する。	5分
	2	今日のお話	今日の租税教室のテーマを予め伝えることで、今何を学んでいるのかを明確にする。	
	3	税金を通して学んでほしいこと		
Ⅰ. 税の意義・役割	4	税金はなぜ必要なの？	公共サービス等の具体例を示し、税が必要な理由を考え、税が私たちのために存在し、私たちのために使われているということを認識させる。	10分
	5	税金はこんなところに使われている		
	6	税金は何のために		
	7-8	税金クイズ①（年間教育費）		
	9	税金がなかったら		
	10	税金はみんなのために		
Ⅱ. 財政の現状と今後の課題	11-12	日本の財政	財政赤字、少子高齢化等の課題に触れながら、主権者として租税立法のあり方や税の使途について関心を持つこと、公正な判断力を持つ国民になるよう自ら考えることの必要性を理解させる。 ◆スライド13は中学生向けのみ収録しています。小学生向けは、13以降は番号が一つずつずれます。	5分
	13	少子高齢化（◆）		
	14	今後の課題		
Ⅲ. 税金の種類と仕組み	15-16	税金クイズ②（税金の種類）	主な税目が約50種類と多いことや様々な税金の集め方を紹介し、公平感の感じ方の立場による違いや意見の対立・合意形成の過程を知ること、社会の構成員として民主主義の仕組みを考えさせる。	20分
	17-22	税金の集め方		
	23-24	公平な集め方		
	25-26	税金の使い方		
	27-29	豊かなまちづくり		
	30-31	民主主義		
	32	申告納税制度		
結びに	33	授業のまとめ	主権者として、知識を持ち、自ら考えることの重要性を改めて伝え、授業を締めくくる。	5分
	34-35	税理士の仕事		
				45分

※時間配分は目安です。

※シナリオ例は、授業時間に対して、分量を若干多めに作成していますので、内容を取捨選択して使用してください。

本章に関連するファイル

- ・授業用パワーポイント（小学生用）
- ・授業用パワーポイント（中学生用）
- ・講師用解説書（小中学生共通）（PDF）
- ・アンケート用紙（小学生用、中学生用、教員用）（Word）

※日税連HP「租税教育」のページで公開していますので、ダウンロードしてご活用ください。日税連HP「租税教育」のページの開き方は、本書P9の手順をご覧ください。次のURLを直接入力して開くこともできます。

(<https://www.nichizeiren.or.jp/taxaccount/education/>)

III 講義用テキスト

※授業開始前にパソコンやプロジェクターを準備し、スライドショーの最初の画面を出しておきましょう。

▶ 導入

〈このテーマは約5分〉

1 あいさつ・自己紹介



自己紹介

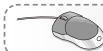
(担任の先生より講師の紹介のあと)

こんにちは。税理士の〇〇〇〇です。

(大きくはっきりした声で簡潔に自己紹介をし、黒板に「税理士〇〇〇〇」とゆっくり、大きく書きます。あわせて補助講師の紹介をしましょう。)

税理士とは、税金の専門家（スペシャリスト）です。日本では、原則として自分の税金は自分で計算して自分で納めます。その計算は、税法という法律に従って計算しますが、この法律は難しいので、税法の専門家である税理士が、税金の計算などいろいろなお手伝いをしています。

(ここで、つかみとして、児童生徒の興味を引くような相談例の話などをするのもよいでしょう。)



〔クリック〕で次画面へ

2 今日のお話

今日のお話

- ・税金はなぜ必要なの？
- ・日本の財政と課題
- ・公平に集めるって？
- ・公平に使うって？
- ・税金から見た民主主義

テーマの発表

(学習の内容を最初に伝えておくことはとても重要です。今何について勉強しているのか、常に意識してもらいましょう。)

今日は、税金がなぜ必要なのか、誰のために使われるのかというお話をします。

- ・日本が抱える財政の課題
 - ・税金の集め方・使い方
 - ・税金から見た民主主義
- キーワードは「公平」です。



〔クリック〕で次画面へ

3 税金を通して学んでほしいこと

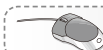
税金を通して 学んでほしいこと

- ・ 思 い や り
- ・ 私たちが主人公

租税教育の目的

そして、今日の授業で、「税金を通して」、「思いやり」と「私たちが主人公」であることについて学んでほしいと思います。

今は、ちょっと難しく聞こえるかもしれませんが、最後まで聞くときっと理解できると思います。

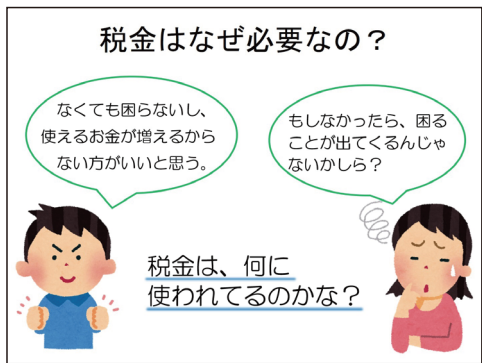


〔クリック〕で次画面へ

I. 税の意義・役割

〈このテーマは約10分〉

4 税金はなぜ必要なの？



税金の意義(問題提起)

皆さんは、税金ってなんだか知っていますか？

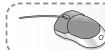
税金はどのようなものか説明するのは、少し難しいので、最初に税金はなぜ必要なのかというところから考えていきたいと思います。

(順番に[クリック])

ある子は、「税金はなくても困らないし、税金がなければ使えるお金が増えるから、ない方がいいと思う。」

また、ある子は、「税金がなかったら、困ることが出てくるんじゃないかしら？」と不安に思っています。

困ることって何だろうね？(問いかける。)



[クリック]で次画面へ

5 税金はこんなところに使われている



税金の身近な使途

そこで、2人は税金が何に使われているのか調べてみることにしました。

(順番に[クリック])

税金がどんなところで使われているかというと、

- ・税金で道路工事やアスファルト舗装したり、横断歩道や歩道橋、信号機を作ったりしています。
- ・市民病院も税金で建てられているんだね。
- ・公立学校の校舎、体育館やプール、教科書のほか、公立学校で教えている先生のお給料も税金から支払われています。

(私立学校の場合には注意しましょう。)

- ・消防車や救急車の費用も税金で賄われていますね。
- ・警察署の建物やお巡りさんのお給料も税金から支払われています。
- ・お年寄りの身の回りの世話をする介護制度にも、税金が使われています。
- ・洪水を防いだり、水不足の時に貯めていた水を利用したりするダムにも、税金は使われているよ。
- ・みんなが遊ぶ公園も、税金で作られています。

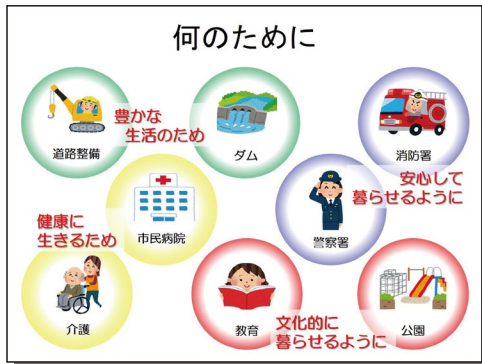
これ以外にも、皆さんの周りには税金が使われているところがたくさんあります。

(時間を見て、児童生徒をあて、このほかに税金が使われているものを発言させましょう。)



[クリック]で次画面へ

6 税金は何のために



税金の意義(具体例と目的)

税金が何のためにあるか、何となく分かりましたか？
(先ほどのスライド「税金の使われ方」から導きだします。)
(順番に[クリック])

- みんなが、
- ・豊かな生活のため
 - ・健康的に生きるため
 - ・文化的に暮らせるように
 - ・安心して暮らせるように
- 税金が使われているんですね。

[クリック]で次画面へ

7-8 税金クイズ①

税金クイズ①

最新の数値は、日税連HPで公開しているパワーポイントデータをご確認ください。

次のうち、税金で負担した公立の小学校1人あたりの年間教育費はいくらでしょうか？

① 約30万円 ② 約60万円 ③ 約90万円

答え

最新の数値は、日税連HPで公開しているパワーポイントデータをご確認ください。

教科書代、学校の建設費、机、いすの購入費、先生の給料などを含めると公立小学校の児童1人あたりの全国平均の金額は約90万円になります。

年間教育費

(順番に[クリック])

ここで皆さんにクイズです。次のうち、税金で負担した公立の小学校1人あたりの年間教育費はいくらでしょうか？

- ① 約30万円 ② 約60万円 ③ 約90万円

(児童生徒に挙手してもらいましょう。選択肢の金額は、利用するパワーポイントデータで確認してください。)

[クリック]

答えは、3番の「約90万円」です。

[クリック]

教科書代、学校の建設費、机、いすの購入費、先生の給料などを含めると公立小学校の児童1人あたりの全国平均の金額は約90万円になります。

(開催する公立小学校の都道府県の児童1人あたりの年間教育費の金額を調べておいて全国平均と比較してみるのもよいでしょう。)

[クリック]で次画面へ

(注) 小学校と中学校で金額が異なりますが、いずれも正解の選択肢は3番に設定しています。

9 税金がなかったら



もしも税金がなかったら

税金が私たちの生活の中で、どんなに大切な役割を果たしているのかを知るために、もし税金がなかったらどうなるかを考えてみましょう。

- ・道路が整備されなくなるかもしれない。
- ・病院に行けなくなるかもしれない。
- ・学校にも行けなくなるかもしれない。

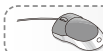
(ここでは、断定的な言い方を避け、「かもしれない」として可能性があるという表現にしています。)

[クリック]

その他のことも全部なくなってしまうかもしれないね。そうするとどうになってしまうかな？

[クリック]

- ・道路が舗装されないから事故が起きやすくなる。
- ・病気は治らず、あちこち具合が悪くなるかもしれない。
- ・学校も教科書もないから、勉強できなくなるかもしれない。
- ・火事がおきても消してもらえず、火災が広まってしまう。
- ・泥棒が捕まらないから、安心して暮らせない。
- ・介護の必要なおじいさんが途方に暮れる。
- ・ダムがないから渇水時には水不足になる。
- ・公園で遊べないから、寝て過ごすようになる？



[クリック]で次画面へ

10 税金はみんなのために



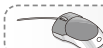
税金の意義(まとめ)

(順番に[クリック])

税金がないと、皆さんの生活は大変なことになってしまいます。だから、税金はみんなから集めて、みんなのために使います。税金は皆さんの幸せのためにあるのですね。

(テーマの最後では、必ず理解の確認をしてください。)

では、実際に日本では、どれくらいの税金が集められ、また使われているか。現状を勉強してみましょう。

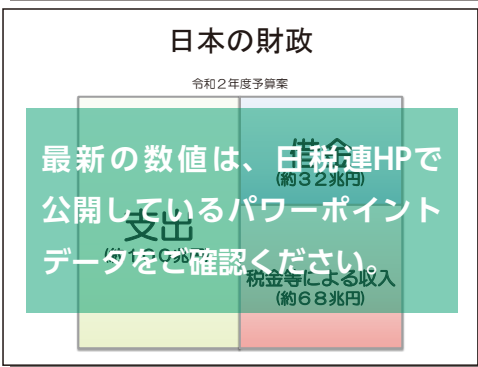


[クリック]で次画面へ

II. 財政の現状と今後の課題

〈このテーマは約5分〉

11-12 日本の財政



財政の現状と課題

財政というと少し難しい言葉ですね。財政とは、国などがお金を集めたり使ったりする活動とその管理のことを言います。

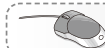
簡単に言うと、国のお財布の状態のことです。税金を集めて、国のお財布に入ってくるお金を「歳入」、国がいろいろなことに使うため、国のお財布から出ていくお金を「歳出」と言います。

【クリック】

日本の財政として、歳入と歳出を見てみましょう。令和3年度の国の予算案では、支出額は約107兆円となっています。これに対して税金等の収入はいくらあると思いますか？

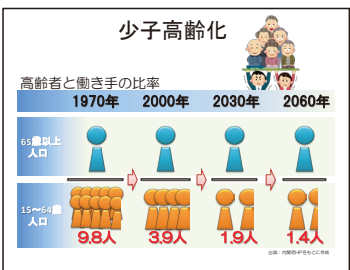
実は、約63兆円しかないのです。支出として必要なお金のうち、58%程度ということですね。

では、残りはどうやって賄うのでしょうか。それは国債という借入によって賄われているのです。



【クリック】で次画面へ

13 少子高齢化



(注) 小学校用はこのスライドが無いため、③以降は一つずつずれます。

少子高齢化 〈中学生向けのみ収録〉

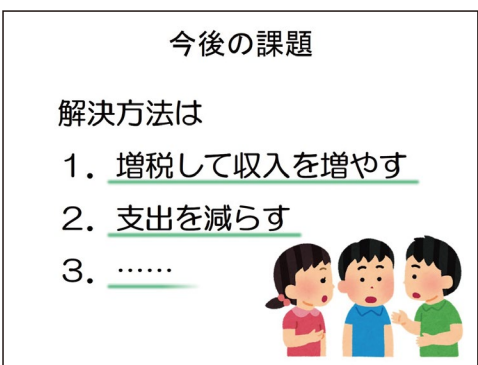
将来に向けての不安もあります。生まれてくる子どもが少なくなるとともに、働いている人たちが高齢になることが予想されています。これを少子高齢化と言いますが、働く世代の人口減少で税金は今後ますます集まりにくくなるかもしれません。

一方で、社会保障費の増加などで、税金は現在よりもさらに多く必要となっていくでしょう。



【クリック】で次画面へ

14 今後の課題



今後の課題

解決方法の一つは、もっと多くのお金を集めること、つまり増税です。増税以外にも、景気がよくなれば、会社の利益や個人の収入が増えるので、自然と税収も増えます。

二つめは、使うお金を減らすことです。必要な支出は残しながらも、無駄遣いをしない努力も必要でしょう。

国会では、この二つについて議論されています。この二つは、どちらか一方だけが正しい解決方法ではなく、それぞれの方法をバランスよく組み合わせることが大切です。

そして三つめとして、別の方法が将来見つかるかもしれません。



【クリック】で次画面へ

▶ Ⅲ. 税金の種類と仕組み

〈このテーマは約20分〉

15-16 税金クイズ②

税金クイズ②



日本の主な税金は、何種類くらいあるでしょうか？

- ① 約20種類
- ② 約50種類
- ③ 約100種類

答え

② 約50種類

消費税、固定資産税、自動車税、酒税、たばこ税、法人税、所得税、相続税、贈与税、揮発油税、石油石炭税、航空機燃料税、石油ガス税、とん税、印紙税、自動車重量税、登録免許税、関税、県民税、事業税、不動産取得税、地区税、狩猟税、自動車取得税、地方消費税、ゴルフ場利用税、軽自動車税、地区税、都市計画税、水利地益税、共同施設税、宅地開発税、国民健康保険税、入湯税などがあります。

税金の種類

(順番に[クリック])

ここでもたクイズです。日本にはたくさんの税金があります。さて、日本の主な税金は何種類くらいあるでしょうか？

- ① 約20種類
- ② 約50種類
- ③ 約100種類

(児童生徒に挙手してもらいましょう。)

[クリック]

答えは、2番の「約50種類」です。

なぜ、こんなに税金の種類があるかという、1種類だけの集め方に限定してしまうと、負担する人が限られてしまい、負担する人の不公平感が増してしまうからです。

そこで約50種類の税金を組み合わせることで、立場や意見の違いが調整されることになり、全体として、できるだけ公平に負担してもらええる仕組みになっているのです。



[クリック]で次画面へ

17-18 税金の集め方 -公平-

税金の集め方

キーワードは
「公平」

公平に集めるって？

どうやったら、公平に集められるかな？

- ・みんなから同じ金額？
- ・持っている人が全額負担？
- ・みんなから同じ率で？
- ・負担能力に応じて？



どうしたらいいの？

税金の集め方

税金はみんなのために使うのだから、みんなから公平に集めたいですね。そうでないと税金を納めるのがいやだと言う人が出てくるかもしれません。

では、どういう風に集めたら公平だと思いますか？

[クリック]

女の子は、どうやったらみんなから公平に集められるのか悩んでいます。そして、四つの集め方を考えました。

(順番に[クリック])

- ・一つめは「みんなから同じ金額を集める方法」
 - ・二つめは「一番多く持っている人(特定の人)が負担する方法」
 - ・三つめは「みんなから同じ率で集める方法」
 - ・四つめは「負担する能力に応じて、負担割合を変える方法」
- どれが公平なのか、女の子は悩んでいますね。

それでは、それぞれの集め方を具体的に見てみましょう！例として、Aさん、Bさん、Cさんの3人が登場します。皆さんは、それぞれの立場に立って考えてみてください。



[クリック]で次画面へ

19 税金の集め方①

みんなから同じ金額を集める

	持っている お金	集める お金	残り	
Aさん	700	100	600	
Bさん	250	100	150	
Cさん	50	100	-50	
計	1,000	300	700	

みんなから同じ金額を集める方法

ここでは、みんな同じ額の100ずつ負担するようにしました。
(順番に[クリック](#))

Aさんは、みんなが同じ金額だから平等だと思っています。
しかし、Bさんは、Aさんと同じ金額を負担するのはおかしいじゃないかと不満そうです。

Cさんは、50しかないのに100の税金をどうやって負担しますか？借金して納めますか？「払えないよ！」と言っています。



[\[クリック\]](#)で次画面へ

20 税金の集め方②

特定の人が全額負担する

	持っている お金	集める お金	残り	
Aさん	700	300	400	
Bさん	250	0	250	
Cさん	50	0	50	
計	1,000	300	700	

特定の人が全額負担する方法

次は、一番多く持っている人だけ（特定の人）が全額を負担した場合です。
(順番に[クリック](#))

Bさんは、何となくAさんに申し訳ないような気持ちになって、小さな声で「ラッキー」とつぶやいています。

Cさんは、払えなかった100から0になって、思わず大声で「ラッキー」と叫んでしまいました。

そしてAさんは「なんで私だけ？」と顔を真っ赤にして怒っています。ひょっとしたらもっと税金の安い他の国へ移住してしまうかもしれません。



[\[クリック\]](#)で次画面へ

21 税金の集め方③

みんなから同じ率で集める

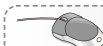
	持っている お金	一律 30%	残り	
Aさん	700	210	490	
Bさん	250	75	175	
Cさん	50	15	35	
計	1,000	300	700	

みんなから同じ率で集める方法

今度は、みんなに同じ率で負担することにした場合です。
(順番に[クリック](#))

300を集めるために率は30%にしました。AさんBさんは、何となく公平なのかな、という思いで不平を漏らすことはありません。

しかし、Cさんだけは、50しかない自分が15負担して35しか残らないので「負担がきつい、これでは生活できないよ」と不満を漏らしています。



[\[クリック\]](#)で次画面へ

22 税金の集め方④

負担する能力に応じて集める

	持っている お金	累進税率	残り	
Aさん	700	245 (35%)	455	
Bさん	250	50 (20%)	200	
Cさん	50	5 (10%)	45	
計	1,000	300	700	

負担する能力に応じて集める方法

最後は、持っている金額ごとに税率を変え、多く持っている人は高い税率、少ない人は低い税率で負担する場合です。
(順番に[クリック])

Aさんは「しょうがないか！」と言っています。
Bさんは、同じ税率の時より下がったので、少し笑顔になっています。
Cさんも、これならなんとか払える金額だと少しほっとした表情になっています。



[クリック]で次画面へ

23-24 公平な集め方

どれが公平な集め方？



- ・みんなから同じ金額を集める方法
- ・特定の人が全額負担する方法
- ・みんなから同じ率で集める方法
- ・負担する能力に応じて集める方法

公平な集め方とは

今まで四つの集め方を考えてもらってきましたが、さて、皆さんはどれが公平な集め方だと思いますか？(問いかける。)
(順番に[クリック])

(税を題材にして「公平」を考えてもらうことは、租税教育における重要な学習支援の一つです。)

- ・公平はいろいろな考え方があること
- ・平等が必ずしも公平ではないこと
- ・公平は不公平と背中合わせにあること
- ・立場が変われば公平の感じ方も変わる

これらについて時間をかけて考えてもらいましょう。

それとともに、AさんとCさんによる「対立」が「合意」になる過程で個人の尊厳と人権を尊重する大切さを感じてもらいましょう。

ここが租税教育で一番重要な部分ですので、時間をかけてじっくりと授業をしてください。)



[クリック]で次画面へ

いろいろ組み合わせたら公平かな？



税金の組み合わせと公平

これらの集め方は全てある意味公平ですね。ただ、1種類だけの集め方に限定してしまうとより多くの人が公平だと感じるのは難しくなります。

だから、日本ではいろいろな税金をいろいろな方法で集めています。

[\[クリック\]](#)

例えば、みんなから広く同じ額を集める税金として、皆さんが買い物をした時に負担している消費税が挙げられます。

(前項でも記載したとおり、児童生徒に「公平」について「税」を題材にして考えてもらうことは、租税教育においてとても重要な学習支援の一つです。「公平」について考え理解してもらい、同時に個人の尊厳と人権尊重の大切さを感じてもらいます。)

また、多くの税目はそれぞれが公平の概念に基づき制定されているものの、単独の1税目だけでは課税の公平は実現できないことから、税目をいろいろ組み合わせることで、できるだけ公平を実現させる仕組みとなっていることを理解してもらいます。)

[\[クリック\]](#)

今度は、持っている人が負担する税金です。固定資産税は、土地や建物を持っている人が負担しています。自動車税は、自動車を持っている人が負担する税金。お酒を買った人は、購入するごとに酒税を負担しています。最後のたばこ税は、たばこを吸う人が購入する際に負担する税金で、価格のうち60%を超える部分が税金です。たばこは、税金の占める割合がとても多いものの一つです。

[\[クリック\]](#)

三つめは、同じ率で集める税金です。法人税は会社や団体の所得にかかってくる税金で、毎年、その会社の所得に一定の率でかかってきます。

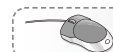
(所得という言葉は、児童生徒の理解度に応じて、「もうけ」や「利益」という簡単な言葉に置き換えて使用してください。)

[\[クリック\]](#)

最後は、負担する能力に応じて税率が変わってくる税金です。所得税は、所得の多い人にはより高い税率で負担してもらい、所得の少ない人には低い税率で負担してもらう税金です。これを累進課税と呼んでいます。所得が一定の金額に満たない場合には、所得税を負担しなくてもよいことになっています。

相続税や贈与税は、亡くなった人が残した財産を引き継ぐ時やお金や物をもらった時に負担する税金です。このような負担の方法は、裕福な人がますます裕福になり、貧しい人がどんどん貧しくなることを防ぐようにする機能も持っています。

[\[クリック\]](#)



[\[クリック\]](#) で次画面へ

25-26 税金の使い方 -公平-

税金の使い方

キーワードは今度も
「公平」

公平に使うって？

どうやったら、公平に使えるかな？



- ・豊かな生活のため？
- ・健康に生きるため？
- ・文化的に暮らせるように？
- ・安心して暮らせるように？

むずかしい！

税金の使い方

次は税金の使い方についてです。集めた税金はみんなから集めたのだから、みんなが「公平な使い方だ」と思えるように使わなくてははいけませんね。

(「公平に使う」という説明については、様々な意見がありますが、本書では、「公平に集めて、公平に使う」という一連の流れで、児童生徒に理解しやすいように、みんなの合意を得られる、あるいはみんなが納得する使い方という意味で使っています。)

[クリック]

公平に集めることをお話ししましたが、せっかく公平に集めた税金の使い方が、特定の人のためだけに使われてしまったら、公平に集めた意味がなくなってしまいます。

税金の目的は、私たちが、豊かで文化的な生活を送り、健康で安心して暮らすために使うことでした。

でも、税金を使って実現したいことってみんな同じなのかな？どうしたら公平に使えばよいのか考えてみましょう。



[クリック]で次画面へ

27-29 豊かなまちづくり

豊かなまちづくり①

健康で文化的・豊かな生活をおくるために必要なものは何？

いくらかかるかな？		
道路整備	公園	介護
ダム	教育	消防署
市民病院	飛行場	警察署
道路整備	1000億円	
公園	5億円	
介護	300億円	
ダム	400億円	
教育	200億円	
消防署	150億円	
市民病院	700億円	
飛行場	300億円	
警察署	150億円	
合計	3000億円	
予算	700億円	
差額	-2300億円	

まちづくりと税金

(順番に[クリック])

税金の使い方の例を挙げてみると、

- ・豊かな暮らしのためには、道路や公園
- ・健康に生きられるように、市民病院や介護制度
- ・文化的に暮らせるように、教育制度や飛行場
- ・安心して暮らすためには、ダムや消防署や警察など

そのほかにも様々なものが必要になります。

例えば、ある街にこれらを全部揃えるため1000億円のお金が必要になりますが、お金(予算)は700億円しかなかったとしたら、このままでは300億円足りません。

どれも役立つ事柄ばかりだけど、皆さんはどう考えますか？



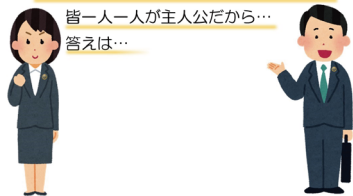
[クリック]で次画面へ

豊かなまちづくり②



豊かなまちづくり③

みんなの将来だから、税金を何に使うのかよく話し合っ
て決めることが大事だよ。
決めたことは、みんなにはね返ってくるよ。
皆一人一人が主人公だから…
答えは…



(順番に[クリック])

A君は「ダムは今造らなくても何年か先でもいいんじゃないか」と考えました。

Bさんは「優先順位をつけたらいい」と言っています。

Cさんが「うちのおばあちゃんは、介護が必要」といって介護制度の充実を強く主張しています。

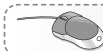
D君は「減らすものと借金で行うものと分けたらいい」と考えたようですね。

あくびをしていた女の子は「無駄なものを減らせばいいんじゃない」と言いました。

本当にいろいろな意見が出ますね。でも、どれか一つが正解ということではないのです。

[クリック]

みんなの将来だから、税金を何に使うのかよく話し合っ
て決めることが大事だよ。決めたことは、みんなに跳ね返っ
てきます。立場や意見の違いでいろいろな考えがあるから、少
数意見も大事にしましょう。対立の中から合意を見つけてみ
んなが納得できる制度にできるとよいですね。答えは、一つ
ではないのです…。



[クリック]で次画面へ

30 民主主義①

次のキーワードは
「**民主主義**」

民主主義～「私たちが主人公」・「思いやり」

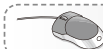
これまで、税金の集め方・使い方を通じて、「公平」につい
て考えてもらいました。「公平」を実現していくためには、大
切なことが二つあります。

一つは、私たちのことは私たち自身で考え、決めていく
ということです。私たちが暮らしている社会は「私たちが主人公」
なのです。

もう一つは、みんなから集めて、みんなのために使う税金
ですから、自分だけではなく、みんなのことを「思いやり」
をもって考えていくことが大切です。

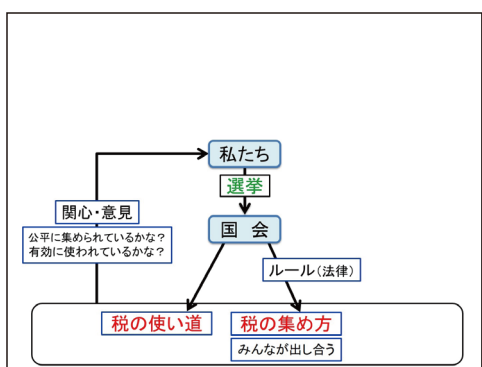
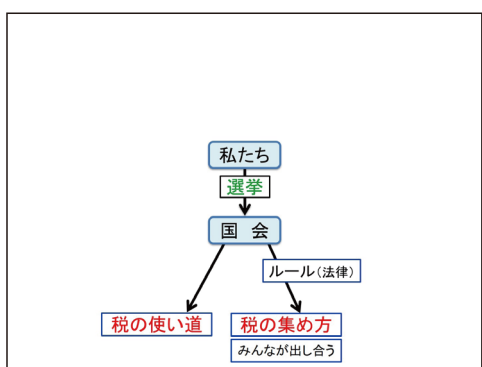
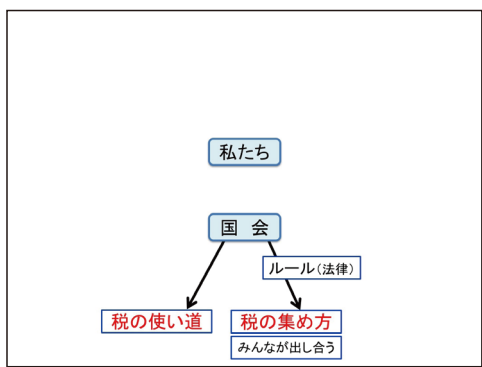
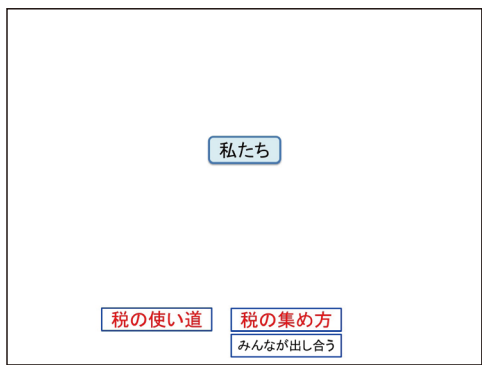
このように「私たちが主人公」と「思いやり」という言葉
は税金と深くつながっています。このつながりについて、も
う少し詳しく考えていくことにしましょう。

次のキーワードは「民主主義」です。



[クリック]で次画面へ

31 民主主義②



税金を通して民主主義を考える

税金の集め方で皆さんに体験してもらったように、実際の社会でも、税の使い道や公平な税の集め方等の仕組みを、代表者を中心に、話し合って決めています。

税は、豊かな生活のために・健康に生きるために・文化的に暮らせるように・安心して暮らせるように、私たちみんなが、出し合っていることは、分かりましたね。

そして、みんなが公平に感じられるように約50種類もの税があるのでしたね。

[\[クリック\]](#)

「税の集め方」のルールは誰かが勝手に新しい税を作ったり、税の割合を上げたり下げたりしているのではなく、法律で決めなければなりません。また、「税の集め方」や「税の使い道」は国会にいる議員が、国会で決めています。

[\[クリック\]](#)

その国会にいる議員は、私たちが選挙で決めています。

[\[クリック\]](#)

私たちみんなが出し合っている税は、国会で集め方を決め、使い道も決めて、私たちの生活のために使われています。

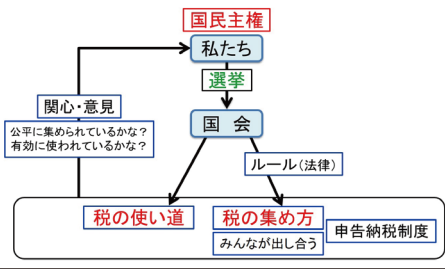
しかし、そのままでは私たちの意見はなかなか届きません。また、私たちが無関心になってしまえば、納得できない集め方・使い道になってしまうかもしれません。

そこで私たちは、まず、この国のあり方や、税のあり方について一人一人が意見を持たなければいけないのです。

意見を持つということは、税が公平に集められているか、集められた税が、豊かに・健康に・文化的に・安心して暮らせるように使われているかなど、税について関心を持ち考えることです。そしてその意見を、選挙などを通して社会に届けていく。そうやって私たちの共通の願い、みんながお互いに自由で幸せに生活していける「より良い社会」が作られていくのです。



税を通して民主主義を考える



ここまでで、日本の社会の税の集め方や使い道が、私たちの意見によって決められているということが理解できたと思います。これが、「国民主権」なのです。

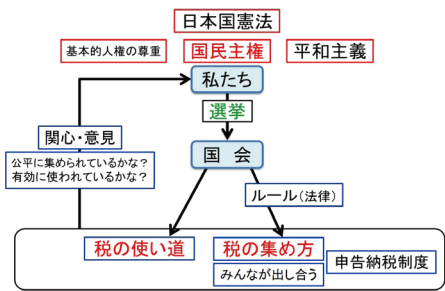
また、自分の税金は自分たちで決めたルールに従って自分で計算し、自分で納めます。これを「申告納税制度」と言います。

主権者である私たちが選挙を通して決める仕組みのことを「民主主義」と言います。

民主主義にとって大切なことは、自分を大切にすることと同じくらい、周りのみんなのことも大切にする、尊重するという気持ちを持ち、どういう集め方をして、どういう使い方をすればみんなのためになるのかを考えることです。

[\[クリック\]](#)

税を通して民主主義を考える



この民主主義を支えているのは、日本国憲法です。憲法は国の最高のきまり（規範）です。

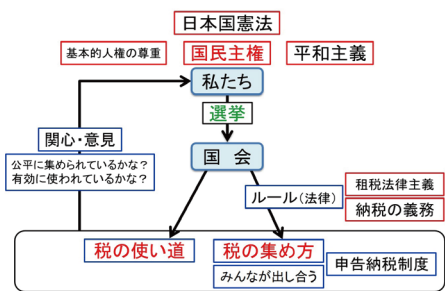
国民主権という言葉が出てきましたが、国民主権は日本国憲法に定められている、三つの柱のうちのひとつで、国の政治を決める権限が国民にあるということです。

先ほど話したように、社会の中でみんながお互いに自由で幸福な生活を送るために、周りの人たちを尊重する、自分を大切にすることと同じくらい、周りのみんなのことも大切にする、ということが「基本的人権の尊重」ということです。

「平和主義」は二度と戦争をしないということです。これも三つの柱のうちのひとつです。

[\[クリック\]](#)

税を通して民主主義を考える



日本の憲法には「新しく税金を国民に課するとき、今ある税金を変更するときには、法律によらなければならない」という意味のことが書かれています。これを「租税法律主義」と言います。

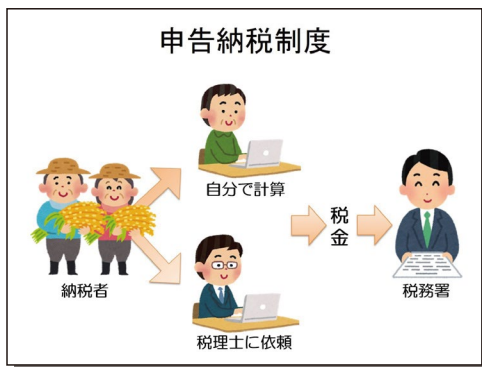
憲法で定める国民の「納税の義務」も自分たちで決めたルール（法律）に当てはまる場合だけ、税を納める義務があるのです。

今暮らしている自由な社会を支えていくためには、自分たちで決めたルールに従って、社会の一員（主権者）として、それぞれの力に応じて、その責任を果たさなければなりません。私たちの自由と権利を守るために税が必要なのです。



[\[クリック\]](#)で次画面へ

32 申告納税制度



申告納税制度

(順番に[クリック])

税金は、義務だから納めるというだけではなく、自分たちで決めたルールに従って、みんなから集めて、みんなのために使うものです。だから、原則として自分の税金は自分で計算して自分で納める制度になっています。これを「申告納税制度」といいます。

自らが主人公として、誇りをもって税金を納めることは、みんなが幸せになれる社会作りの基礎になっています。



[クリック]で次画面へ

▶ 結びに

〈このテーマは約5分〉

33 授業のまとめ

宿題

- ・ 思いやり
- ・ 私たちが主人公

期限：大人になるまで

今日の授業で覚えておいてほしいこと

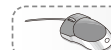
どうやったらみんなから公平に集めて集めた税金を公平に使うのか、とても難しい問題で、簡単には結論を出すことはできません。「私たちが主人公」と「思いやり」という言葉をヒントに考えてみてください。

[クリック]

将来、みんなが日本をどういう国にしたいのか、そして、自分たちの住む社会をどういうものにしたいのか？この問題はみんなが大人になるまでの宿題です。

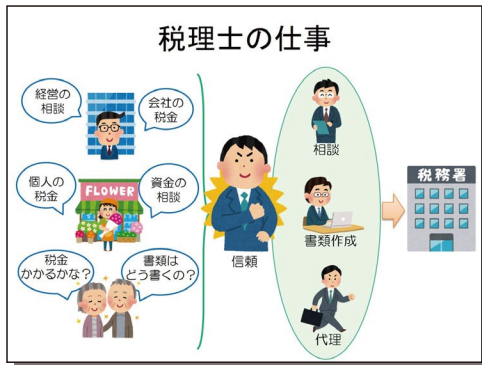
(大人になるまでというのは、じっくりと考えてもらい、明確な期限を設けずに、その後も考え続けて最良の方法を模索してもらうための表現として使っています。)

今日の授業のことをおうちの人とも話をしてみてください。



[クリック]で次画面へ

34-35 税理士の仕事



税理士の仕事

税理士は具体的にこんな仕事をしています。

(順番に[クリック])

- ・ 会社の税金で分からないことがある。
- ・ 経営判断に迷って相談したい。
- ・ 個人商店の税金や資金の相談に乗ってほしい。
- ・ 家を建てたり、物をもらったりして、税金がかかるのかどうか分からないので、話を聞きたい。
- ・ 書類の書き方が分からない。

こんなとき頼りになるのが税理士です。税理士は、そういう人たちの相談に乗ったり、書類を作成したり、本人に代わって税務署に出向いて説明したりする仕事をしています。

税理士は、こんなバッジをつけています。

(冒頭の自己紹介で説明の方がスムーズですが、申告納税制度の説明の後で行う方が児童生徒に分かりやすいことや、時間の関係で省略する可能性があることから、最後に配しています。講師の判断で、適宜順序を入れ替えてください。)